

[セグメント間売上消去後]

□はH29/10公表値

	29年3月期 通期		30年3月期 通期 旧セグメント		前期比	30年3月期 ※ 通期 (参考)新セグメント		31年3月期 通期		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比		実績	構成比	見通し	構成比		
	億円		億円			億円		億円			
売上高合計	4,013	100%	4,400	4,511	100%	+12%	4,511	100%	5,000	100%	+11%
<海外売上高合計>	<2,881>	72%	<3,273>	<3,273>	73%	+14%	<3,273>	73%	<3,600>	72%	+10%
営業利益 (%)	(16%) 632		(16%) 700	700		+11%	(16%) 700		(15%) 770		+10%
電力関連事業	528	13%	544	544	12%	+3%	544	12%	560	11%	+3%
営業利益 (%)	(-) △66		(-) △47	△47		-	(-) △47		(-) △40		-
セラミックス事業	2,450	61%	2,678	2,678	59%	+9%	2,407	53%	2,670	53%	+11%
営業利益 (%)	(26%) 646		(22%) 581	581		△10%	(24%) 567		(22%) 600		+6%
エレクトロニクス事業	1,035	26%	1,290	1,290	29%	+25%	613	14%	670	13%	+9%
営業利益 (%)	(5%) 53		(13%) 167	167		+217%	(1%) 9		(3%) 20		+118%
プロセステクノロジー事業							947	21%	1,100	22%	+16%
営業利益 (%)							(18%) 171		(17%) 190		+11%

※31年3月期より事業セグメントを変更しています。この変更に伴い、30年3月期の経営成績についても同様の区分に組み替えて表示しています。

	(売上高比)	(売上高比)	前期比	(売上高比)	前期比
経常利益	646 (16%)	700 706 (16%)	+9%	765 (15%)	+8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	364 (9%)	460 458 (10%)	+26%	520 (10%)	+14%
ROE	8.8%	10.4%		10.9%	
1株利益	112.71円	142.42円		161.61円	
配当金(配当性向)	40円(35.5%)	44円(30.9%)		50円(30.9%)	

設備投資	601 (15%)	717 (16%)	+19%	1,460 (29%)	+104%
減価償却費	266 (7%)	303 (7%)	+14%	375 (8%)	+24%
研究開発費	187 (5%)	211 (5%)	+13%	250 (5%)	+18%

為替レート(円/USD)

109

111

105

為替レート(円/EUR)

119

129

125

平成30年3月期 実績 … 前期比 増収・増益 売上高は過去最高を更新 *売上高 4,358億円(平成28年3月)

① 業別業績概況(売上高・営業利益)

【電力関連】……………増収・赤字縮小

- ・がいし 海外はアジアを中心に増加。国内は省エネ促進や再エネ拡大により電力会社の託送料金収入が減り、各社は修繕費を圧縮。主に配電製品の需要が減少し、赤字拡大。
- ・NAS 国内外共に大口案件の出荷がなく赤字。

【セラミックス】……………増収・減益

- ・自動車関連 中国市場のトラック販売が増加したほか、排ガス規制強化に伴うセンサー使用本数増により自動車関連製品が増加。利益は償却費、開発費増に加え、増産投資の立上げ費用増により減益。
- ・産業プロセス 中国の客先で車載用リチウムイオン電池関連の投資が増加し、加熱装置を中心に増収となった一方、高採算案件の減少により減益。

【エレクトロニクス】……………増収・増益

- ・半導体製造装置用製品 半導体メーカーの旺盛なメモリー投資を背景に、半導体製造装置需要が大幅に増加し増収・増益。
- ・電子部品 携帯基地局投資が低調に推移しパッケージの業績が悪化した一方、複合ウエハーや HDD 用圧電素子の需要増に加え、コストダウンにより増収・赤字縮小。
- ・金属 中国市場向けを中心に需要が堅調に推移し、増収・増益。

② 為替影響

- ・前期比 売上高 +82 億円、営業利益 +29 億円
(前期 109 円→当期 111 円/USD、119 円→129 円/EUR)

③ 特別利益 投資有価証券売却益 13 億円を計上。

④ 特別損失 固定資産減損損失 38 億円、競争法関連損失引当金繰入額 21 億円を計上。

⑤ 配当 期末 23 円 (中間 21 円と合わせ年間 44 円、前期比+4 円)

平成31年3月期 見通し ……前期比 増収・増益の見通し

平成 31 年 3 月期より HPC(半導体製造装置用製品)事業と産業プロセス事業を束ねる「プロセステクノロジー事業本部」を新設。

① 事業別業績概況(売上高・営業利益)

【電力関連】……………増収・赤字継続

- ・がいし 国内は電力会社の設備投資抑制が続き需要低迷が続くほか、海外でも中東・北米の需要が低調に推移する見通し。生産合理化を実施も赤字が継続する見通し。
- ・NAS 国内需要が増加するも、大口出荷がなく赤字が継続する見通し。

【セラミックス】……………増収・増益

- ・自動車関連 欧州の排ガス規制強化に伴いセンサーや GPF(ガソリン・パーティキュレート・フィルター)の需要が増加し、増収・増益の見通し。

【エレクトロニクス】……………増収・増益

- ・電子部品 モバイル通信向け高性能フィルターの市場拡大を背景に、複合ウエハー製品の需要が増加。平成 30 年 4 月に新製品(紫外 LED 用マイクロレンズ、窒化ガリウム(GaN)ウエハー)を事業化。

【プロセステクノロジー】……………増収・増益

- ・半導体製造装置用製品 半導体メーカーの設備投資が引き続き高水準で推移し増収・増益の見通し。
- ・産業プロセス 低レベル放射性廃棄物処理装置の新設案件により増収・増益の見通し。

② 為替影響

- ・前期比 売上高 △116 億円、営業利益 △49 億円
(前期 111 円→当期 105 円/USD、129 円→125 円/EUR)
- ・年間 1 円当たりの影響 USD(売上高 14 億円、営業利益 7.2 億円)
EUR(売上高 7 億円、営業利益 1.0 億円)

③ 配当予想 中間 25 円、期末 25 円(年間 50 円)

[セグメント間売上消去後]

	29年3月期 第2四半期累計期間		30年3月期 第2四半期累計期間 旧セグメント		30年3月期 ※ 第2四半期累計期間 新セグメント		31年3月期 第2四半期累計期間 見通し		前年 同期比
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	見通し	構成比	
売上高合計	億円 1,943	100%	億円 2,198	100%	億円 2,198	100%	億円 2,400	100%	+9%
<海外売上高合計>	<1,401>	72%	<1,615>	73%	<1,615>	73%	<1,700>	71%	+5%
営業利益 (%)	(18%) 343		(16%) 359		(16%) 359		(15%) 350		△2%
電力関連事業	264	14%	272	12%	272	12%	250	10%	△8%
営業利益 (%)	(-) △28		(-) △21		(-) △21		(-) △25		-
セラミックス事業	1,193	61%	1,310	60%	1,185	54%	1,290	54%	+9%
営業利益 (%)	(29%) 351		(23%) 298		(24%) 290		(22%) 280		△3%
エレクトロニクス事業	486	25%	615	28%	299	14%	320	13%	+7%
営業利益 (%)	(4%) 19		(13%) 81		(0%) 0		(2%) 5		+1,573%
プロセステクノロジー事業	/		/		442	20%	540	23%	+22%
営業利益 (%)					(20%) 90		(17%) 90		+0%

※31年3月期より事業セグメントを変更しています。この変更に伴い、30年3月期の経営成績についても同様の区分に組み替えて表示しています。

		(売上高比)		(売上高比)		(売上高比)	前年 同期比	
経常利益	324	(17%)	342	(16%)	/	330	(14%)	△4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	217	(11%)	198	(9%)		200	(8%)	+1%

設備投資	309	(16%)	320	(15%)	/	580	(24%)	+81%
減価償却費	128	(7%)	145	(7%)		175	(7%)	+21%
研究開発費	87	(4%)	100	(5%)		115	(5%)	+15%

為替レート(円/USD) 106 111 105
 為替レート(円/EUR) 119 127 125